

(5) 長期入院精神障害者が実家以外の家に納得し退院するプロセス

医療福祉学研究科医療福祉学専攻博士後期課程 ○鶴岡 和幸
医療福祉学研究科医療福祉学専攻 長崎 和則
医療福祉学研究科医療福祉学専攻 飯田 淳子

【目的】

長期入院精神障害者の地域移行を進めるため、2000年以降様々な制度・政策が取組まれている。その結果、地域移行は進んだが、精神障害者の長期入院は未だ解消には至っていない。そこで本研究では、元長期入院精神障害者の語りに着目し、退院に至るプロセスを明らかにすることを目的とした。

【方法】

本研究の対象者は、現在、地域生活を送っている元長期入院精神障害者13名である。調査期間は、2021年11月～2023年3月である。本研究は川崎医療福祉大学倫理委員会による承認（承認番号：20-074）をうけ実施した。インタビュー内容は逐語録を作成し、M-GTA（Modified Grounded Theory Approach）を用いて分析を行った。

【結果】

13名の語りを分析した結果37の概念と8つのサブカテゴリー、7つのカテゴリーが生成された。以下にストーリーライン（結果）を示す。〈〉は概念、

【】はサブカテゴリー、『』はカテゴリーである。

精神障害者は、『自宅への退院が可能な状態』が続きかつく本人の思いを理解した専門職のサポート〉を受けることで『実家以外の家への退院の環境

整備』状態に至っている。そして、この状態が継続することによって『生活の場の喪失』が改善し、精神障害者は、『退院納得のための確認作業』のあとに起こる2つの納得のうちどちらかの納得を経て実家以外の家への退院へと至っていた。納得の1つは、『退院先への不安や戸惑い』を感じながらも<本人の思いを理解した専門職のサポート〉を受けることで生じる<後ろ向きな納得〉である。もう1つは、『退院先への不安や戸惑い』を感じることはない<前向きな納得〉である。

【考察】

分析結果から退院には、コアカテゴリーである『実家以外の家への退院環境整備』が必要であった。これは、3つのサブカテゴリーにより構成されている。それらは相互に影響しあっており、3つのサブカテゴリーが整うことで退院に至るプロセスが動き出している。そのため、専門職は3つのサブカテゴリーが整うことを意識した支援を行う必要がある。また、長期入院精神障害者の退院は、2つの納得のうちどちらかの納得が必要であった。その理由は、退院先が希望とは異なる実家以外の家への退院であったためである。実家以外の家を退院先として納得できるように施設見学を専門職が行っていた。